

令和三年幸手市成人式

成人式実行委員長

田辺 紀代子さん



私たちにとって一つの節目である2020年は、思いもよらぬ禍事に見舞われ、平穏な日常のありがたみを感じる年となりました。同じ境地に立つ皆様と無事に晴れの日を迎えられることをうれしく思います。

私たちは様々な出会いや別れを繰り返し、いつも誰かに支えられながら歩んできた20年、心の拠りどころとなってくれた家族、正しく導いてくださった先生方、そして共に切磋琢磨した友人。今日まで携わってくださったすべての方々への感謝の気持ちを胸に、さらにこれからの出会いに期待し、前進していきます。進む道はそれぞれですが、自分で選択した道を信じ、新成人として自覚ある行動と責任感を常に持ち、郷土幸手市を誇りに未来へ羽ばたく挑戦者となるよう精進して参ります。

成人式第一部新成人「誓いの言葉」より



▲間隔を空けて着席する新成人



▲式典中もマスク着用で静粛に臨みました

成人式

1月10日(日)アスカル幸手で成人式が挙行されました。今年成人を迎えた人は、平成12年4月2日から平成13年4月1日生まれの男性211人、女性222人の計433人。そのうちの約7割が式に参加しました。

会場外ではマスクをしながらも、旧友などと記念撮影をし、成人を喜び合う姿が見られました。今年の成人式は第一部が幸手中学校、第二部が東中学校と西中学校の二部制で開催されました。第一部では幸手中学校卒業生の田辺紀代子さんが、第二部では東中学校卒業生の岡敬斗さんが新成人代表として「誓いの言葉」を発表しました。

木村市長は「このような時だからこそ、皆様の「若い力」と「行動力」で新しい時代をより良いものに創造してください」と新成人にエールを送りました。

みなさんのこれからの活躍を期待しています！

祝

【インタビュー ＊ 岡 敬斗 さん】



成人式が中止やオンライン開催になっている地域もある中、幸手市ではこうして無事開催することができてよかったし、ありがたいです。

第二部の「誓いの言葉」に関して、新成人のみんなには、「あのときやっておけばよかった」とか思ってほしくない、だから20代のうちにできることはどんどん挑戦してもらって成長に繋がりたい、繋がってほしいという思いを込めました。実際、年齢を積み重ねるうちに勉強とか資格取得など難しくなると思います。そのため20代でしかできないことは20代のうちに積極的に挑戦していきたいと思います。

最後に今こうして自分がいるのは両親をはじめ、ご指導くださった先生方やお世話になった方々のおかげです。この恩は絶対忘れずに人生を進んでいきたいです。

入館前の体温測定と手指消毒



◆コロナ禍の成人式

年末年始の感染者数の増加から、全国的に成人式を開催中止か、と揺れていましたが、幸手市は1月6日(水)に開催を決定しました。

例年の開催方法を変更し、二部制開催で準備していたため、収容率も約20%と密な状態を回避できることから、感染拡大の防止対策を十分に実施しました。

- ① 3密の回避(二部制、左右2席・前後1列の間隔、換気など)
- ② 参加票による体調チェック、体温測定、入館時の消毒
- ③ 会場内の一方通行化と座席指定
- ④ 成人式式典前後の会食中止の要請など、対策を徹底

コロナ禍の中、意識を高め、新成人の門出を祝福しました。